



な装置を動かしたり、一斉の通信を行うために長時間賄いきれるほどの出力は期待できず、仮に一時期通信がつながっても短時間で再度通信がストップするであろうと思います。

ビル業界にとって一番怖いインフラのストップは「停電」です。

上の通信途絶ももちろんですが、現在の超高層ビルは名古屋駅界隈では高さ 250m 級、50 階級のものが数棟建てています。縦の移動はエレベーターに頼らざるを得ません。

最近のエレベーターは非常時に近隣階まで動き扉を開けることができますが、そこからの移動は階段の上り下りに頼らざるを得ません。

30m 級ビル 10 階程度の階段であれば健康な大人であれば移動は可能ですが、数十階の階段を安全かつ他者に危険を及ぼさずに上り下りできる人が一体どれくらいの割合でいるか疑問です。

また古いタイプのエレベーターは停電時にストップし、長時間閉じ込められる危険性もあります。

水の確保についてもポンプで水を屋上タンクに汲み上げるため、長時間の停電は断水にもつながります。

電気が色々なインフラの大元であり、電気が止まった時にどうするかを常日頃から考えておく必要があります。

テナントビルは多くの企業・店舗の入居者の集合体であり、各企業は災害時のコンティジェンシープランを策定していることと思いますが、それらが各々勝手に自社の方針に従って行動した場合に、他社との軋轢や混乱を引き起こされることが想定されます。

会員各社はビル単位で「テナント連絡会」や「防災会議」で非常時の共通認識を持つよう努めていますが、普段の努力や入退去があった際には再度共通の認識を持ってもらうため、災害マニュアルを整備し、常備しておく必要があります。

(一社) 日本ビルディング協会連合会では令和 2 年 6 月に

「防災マニュアル」「防災ポケットブック」を策定し各社に配布いたしました。

それらを基に自ビルの災害時対策を練り、入居各社に共通認識と協力要請を普段から行っておく必要があります。

他団体の共助ですが、ビル業界は「箱」であり、場所をご用意できます。

当協会会員は名古屋駅から栄までに集中しており、名古屋駅周辺には当協会会員のビルが大規模災害時帰宅困難者の「一時退避場所」や「退避施設」を用意しています。

名古屋市の「[帰宅困難者支援サイト](#)」に[マップ](#)が掲載されています。

(<https://www.city.nagoya.jp/bosaikikikanri/page/0000063026.html>)

マップのPDFファイルもダウンロードできますので、平常時にダウンロードし印刷して机の引き出しなどに保管ください。

(非常時のヘルメットの中に折りたたんで入れておくといざという時に探さなくてもいいと思います)

当団体は会員企業約 100 社と小規模で、テナントビル所有者のカバー率としては非常に少ない団体です。昨今のコロナ禍において入居率の低下や、賃料引き下げ圧力から会費節約のため退会者が増加しています。

何とか魅力ある行事や知識を提供し退会者に歯止めをかけ、さらに入会者を増やし災害に対する共通認識を高めていきたいと思っています。



<名古屋ビルディング協会 URL>

<https://www.jboma.or.jp/nagoya/>

(2) 日本ガス協会

～インフラ等がストップした場合の影響について話し合っ  
てどのような想定や対策が必要だと感じたか～

～中部防災推進ネットワークのメンバー間の共助でできることはあるか（自団体が他団体に求めたいこと、自団体が他団体にできること）～

今回のメンバーは偶然にもライフライン企業のみ（+日本損害保険協会）となってしまいました。

ライフライン企業としては大地震が発生した時にも供給の継続または早期復旧が求められることから、あらゆるトラブルを想定した自助（耐震性を有する設備への更新、非常用発電設備の整備、自営無線設備の運用、災害時優先電話の確保、非常食の準備など）が進められています。

一方、自助だけでは対応できない事項として、例えば全国からやってくる復旧要員（他地域で発生すればいくともあり）のための宿泊施設の確保、食料品の確保、移動のための道路の優先通行、復旧拠点の確保などが挙げられます。

このような事項は、ライフライン企業だけでなく、全ての復旧活動で必要とされる事項ですので、大規模災害が発生した場合は、取り合いになることが予想されます。

このために、企業間で協定を締結するなど自助を進めている企業もありますが、どこかでコントロール・差配する仕組みが中部防災推進ネットワークの中で構築できればと感じました。

一方、中部防災推進ネットワークに参画していない分野があることから、そういった業界団体を巻き込んでいければと感じました。



<日本ガス協会 URL>

<https://www.gas.or.jp/>

---

## 2. 本ネットワークの参画団体からのお知らせ (防災イベントの予定等)

---

### (1) 岐阜県

#### ○イベント名

第87回 げんさい楽座

#### ○開催日時

令和4年9月26日(月) 19:00～20:30

#### ○開催場所

ぎふメディアコスモス

※オンラインによる配信を視聴される場合は、清流の国ぎふ防災・減災センターフェイスブックにアクセスして視聴してください。

後日 YouTube の公式チャンネルでも配信予定です。

#### ○概要

今回は「食の備えとアレルギーについて」をテーマに岐阜女子短大の長屋郁子専任講師にお話しいただき、普段の生活に身近な「食」の観点から災害への備えを考えていきます。

#### ○Web ページ URL

Facebook ページ

[＜https://www.facebook.com/gifu.bousai.gensai＞](https://www.facebook.com/gifu.bousai.gensai)

YouTube 公式チャンネル

[＜https://www.youtube.com/channel/UCUJpUvIuoHL6MP19nb9t0XA＞](https://www.youtube.com/channel/UCUJpUvIuoHL6MP19nb9t0XA)

---

## 3. 編集後記 (事務局・協力団体のひとこと)

---

名古屋大学研究員の■■■■と申します。今年度から中部防災推進ネットワークの末席濁させていただいております。

中部防災推進ネットワークは本当に様々な業界の皆さまが集い、南海トラフ地震などの巨大自然災害に対して連携した活動を行うため、顔の見える関係の構築が為されていると感じております。

今年度の会合では、当方は皆さまとの議論には十分に参加できておりませんが、ワークショップでの各グループからのご発表を伺えば、活発なご議論がされていることがよく分かります。

巨大自然災害に立ち向かうためには、業界を超えた連携が必要であることは、皆さまご異論無いと思います。では、発災時に必要とされる連携とは一体、どんなものなのでしょうか。

辞書などでは、連携とは「互いに連絡をとり協力して物事を行うこと」とされております。

私自身、連携を冠にする研究センターに所属しておりますが、正直言って明確な答えを持ち合わせておりません。今はコロナ禍の影響で物理的に集まり、直接顔を合わせて話し合う事が難しく、その意味では連携を強く進めていくことが難しい状況であることは否めないと思います。それでも Web 会議という形で一堂に会して顔が見える関係を構築することは重要なことです。更にこの中部防災推進ネットワークの場が「一緒に Web 会議に参加した＝連携できた」となるだけではなく、ワークショップなどを通じて互いに意見交換を行う事で、さらにもう一步、相互理解と必要な連携が出来る場になればと期待しております。

事務局としても連携ができる関係性が構築され、様々な防災対策がさらに進むよう努力していきたいと思います。引き続きよろしく願いいたします。

今日も外は 30 度を超える暑さとなっております。酷暑来たりなば秋遠からじ。

暑い日はまだまだ続きますが、コロナ対策も行いつつ、どうぞご自愛ください。

